

あきる野市

平成20年(2008)3月31日

第12号

町・自連会報

発行/平成20年3月31日 発行者/平野通雄 編集/あきる野市町内会・自治会連合会会報部会

最近の世相は気になることが多く、残念に思いますが、まずは身の回りに心を配り、新しい年は「誠」とか「いたわり」「思いやり」といった明るさ、温かみの実感できる穏やかな年であって欲しいと思います。平成20年は区切りの良い年でありませう。振り返って昭和20年とは言えば、第二次世界大戦に祖国日本が終戦の年です。10年一昔と言いますが、明治のスタートから140年が経ち、昭和天皇が逝去されて20年経ちました。

今年日本にとって節目の年とも言えると思います。米国に依存して繁栄してきた日本は今やグローバルな変動の大波に翻弄されようとしています。昔から国家の基本は政治・経済・安全保障と言われますが、国の基礎体力の経済だけは漸く面目を保っているものの、安全保障は米国の傘の下での保護、政治は昨年来、舵を失った船のような状態です。国の前途は中国などの新興の勢いに追いつけられ懸念さえ感じ、多くの課題を抱え多難のようです。

豊かな国になりましたが、その生活の豊かさの中からの貧困といえます。少子高齢化の進み、年金問題、給料は上らないが株の配当は上る、格差問題、等々です。そんな中で平成の大合併の先陣をきって新生あきる野市の出発から三期12年間に亘りご尽力を頂いた田中市長から昨秋白井市長へとバトンタッチされ、新しい一歩を力強く踏み出しました。

私共80から成る町内会・自治会連合会は、平成11年統合以来9年、あきる野市の安全・安心の街づくりの市政の一翼を自負と誇りをもって担い夫々の地域の連帯感の中で豊かな心をもち健全に歩んでおります。

地域と学校、防犯、健康推進、そして災害発生時における取組み等々、益々多面的、多角的な地域力を必要とされる時代、知恵と想像力を豊かに地域共同体を基軸に明確な行動目標をもって、尺度に誤りなく、時に深呼吸もし、地道に地域自治活動を進めてまいります。戦後の欧米流の個性



21世紀も8年目に入りました。昨年の世相を表わす文字は偽り(いつわり・にせ)でした。

誇りある日本人の心は、何処にいつてしまったのかの思いです。



地域に底力を

今年日本にとって節目の年とも言えると思います。

あきる野市町内会・自治会連合会 会長 平野通雄

人主義がもてはやされ、思いやりの心も消え、モラルの低下もここまできたかの思いです。

地域の活性化、底力を必要とするとき、地域の一体感をもった取組みを必要とします。それは失われている共同体のルール、共同体の繋り、絆を取りもどす大きな力になっていきます。

今日より明日、そして今年が少しでも良い年になりますよう、力強く「一歩前」をモットーに一層裾野を広げ地域自治のより良い発展に向けて努めてまいります。

今後共、行政ご当局はじめ、皆様方のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

菅生歌舞伎と菅生一座―地域の連帯感

地域の見どころ

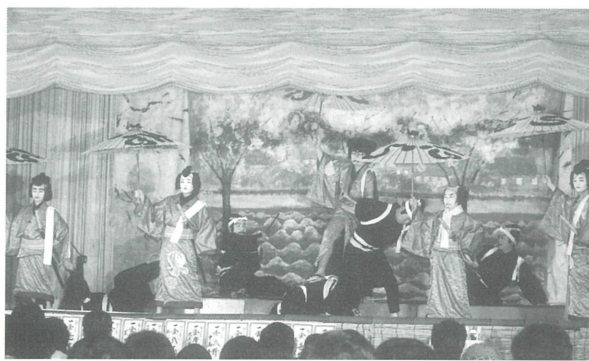
菅生には、明治四十二年に造られた五間(約九メートル幅)の組立舞台があり、ここで歌舞伎公演が行われたのが菅生歌舞伎の始まりです。さらに大正六年には八間(約十四・五メートル幅)の舞台を造り、完成祝いに忠臣蔵十二幕を二日がかりの大熱演に村人達はヤンヤの喝采だったそうです。

舞台まで造ってしまいう芝居好きな地域のため、氏神さまである正勝神社の祭礼には、毎年舞台を掛けて二宮歌舞伎や菅生の人達による歌舞伎が行われ、菅生の祭りと言えは歌舞伎と言われるようになりました。

近隣より大勢の人達が見に来るようになりましたが、昭和三十年代になるとテレビに押され祭りの歌舞伎も衰退し、舞台を掛けることが少なくなりました。

昭和五十年二月に組立て舞台が都の民俗有形文化財に指定されたのを機に、組立て舞台保存会が結成され、もう一度歌舞伎を、の聲が高まり菅生歌舞伎「絵本太功記十段目」「寿曾我の対面」が復活しました。しかし、時代の波と共に、高齢化が進み、このままではせっかくの組立て舞台が衰退してしまうと、住民有志が、地域の貴重な文化財を永く後世に伝えると共に地域の活性化を図ることを目的に立ち上がり、平成十五年十一月に町内会の会合で、菅生一座が承認されて、再び「菅生歌舞伎」が発足し九歳から七十歳の男女で構成され、年一、二回の公演を目標に練習を行っています。

発足当初は、あきる野座や秩父歌舞伎正和会から、衣装の借用や化粧、着付け等のご指導を受けましたが、今では化粧、着付けは元より衣装や髪も一座で造れるようになり、演目は「絵本太功記十段目」「白浪五人男」「寿曾我の対面」があり、その他に軽演劇の「水戸黄門」や「金色夜叉」があります。



小学生による白浪五人男の公演もできるように一月二十六日には多西小学校で、第二回菅生歌舞伎が公演され、その中で、子供白浪五人男が演じられ大喝采を浴びました。また、子供達が大人と一緒に行う事により連帯感も生まれ地域の活性化につながり、今後の菅生一座(菅生歌舞伎)の活躍が期待されます。

(菅生町内会長 森田庸二)

深沢自治会長代行に

西志村 訓雄氏



綱引き大会



消防出初式

訃報

志村勝美氏(深沢自治会長、五日市地区選出社協評議員)69歳。平成19年11月18日逝去されました。

深沢自治会長として地域のために、また社協評議員として、社協主催の福祉バザー等にご尽力されました。

連合会では、花輪を贈りご冥福をお祈りしました。

編集後記

■会報12号をお届けします。お手もとに届くころは、桜花も咲き春の息吹きとともに各町内会・自治会の新体制が躍動するころと思います。

■会報12号では、市長からご挨拶をいただきました。

市民皆様が市政に参加して協働のまちづくりに向けての事業、「防災・安全地域委員会」を立ち上げ「夢のもてる市政へ」が提言されます。真に町内会・自治会の底力を構築する大きな課題と認識し、町内会・自治会の組織の拡充が必要です。集合住宅等が増加するなか、加入率は60%台。個人では防げない事が多くあります。防犯・学童の安全も地域ぐるみで守らなければなりません。向う三軒両隣の互助の精神の再構築が必要です。

■会報12号まで会員各位に執筆をお願いしました。地域には、伝統文化の豊富さと自然の美しい市です。この素晴らしい環境を共有し、発展させることも町内会・自治会の底力です。継承していきたい。

(会報部会長 土士田一男)

市民と協働のまちづくり

あきる野市長 白井 孝



あきる野市町内会・自治会連合会会報第十二号発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

町内会・自治会連合会並びに各町内会・自治会の役員・会員の皆様には市政運営にあたりご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

また、各町内会・自治会の地域におかれまして、さまざまな行事や活動を通じ、地域の発展のためご尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

あきる野市では、昨年、四月に「秋川渓谷 瀬音の湯」がオープンし、六月には関越自動車道と中央自動車道が圏央道により接続され、八月は中央図書館がオープンするなど、観光・交通・文化の施設

が整備され、将来都市像でもある「人と緑の新創造都市」の実現に向け、着実に歩んでおります。

さらに、秋川の清流と美しい自然公園の山並みや田園風景などの地域特性を生かし、調和のとれた環境都市を目指し、各地域に効果的な施策展開を図り、また、市

役所内では「市民と協働のまちづくりを進めよう」をスローガンに市民皆様が市政に参加していただく協働のまちづくりに向けて、さまざまな事業を検討しております。

そのような中、町内会・自治会の皆様のご協力をいただき、「防災・安心地域委員会」を立ち上げ、「夢のもてる市政へ」の実現に向け、全力で取り組ん



でまいりますので、引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

終わりに、各町内会・自治会並びに連合会のみならずのご発展と会員皆様のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

あきる野市町内会・自治会連合会役員協議事項

平成十九年八月二十四日

- 各地区からの報告事項
- 各部会の報告
- 会長任期の統一について
- 市からの連絡事項
- 平成二十年度花いっぱい運動について
- 二、東京都地域の底力再生事業について
- 三、防災初動体制について
- 九月十八日
- 連合会視察研修について
- 各地区からの報告事項
- 各部会の報告
- 市からの報告、連絡事項
- 一、健康のつどい他
- 二、災害用井戸について
- 十月十六日
- 部会活動の経過報告
- 平成十九年度一泊研修会について
- 市及び関係省庁からの連絡事項
- 一、土砂災害防止法に基づく現地調査について
- 二、あきる野市一斉清掃(秋季)の実施について
- 三、健康課からのお知らせ
- 四、地域イキイキ元気づくり事業地区懇談会での意見・要望のまとめについて
- 五、災害用井戸の調査依頼について
- 六、平成二十年度花いっぱい運動について
- 七、個人情報保護制度に関する説明会開催のお知らせ
- 十一月二十日
- 防災初動体制の検討について
- 新年会について
- 日帰り研修について
- 市からの報告、連絡事項
- 一、青梅税務署からのお問い合わせ
- 二、社協からの報告
- 三、民生委員・児童委員の改選に伴うお礼について
- 平成二十年
- 一月十一日
- 各地区からの報告
- 部会活動について
- 市からの報告、依頼事項
- 一、社協からのお問い合わせ
- 二、健康づくり市民推進委員の推薦について
- 三、廃棄物減量等推進委員の推薦について
- 二月十五日
- 住宅用火災警報器の販売幹旋の取り組について
- 部会活動の経過報告
- 市及び関係省庁からの連絡事項
- 一、住宅用火災警報器の普及について
- 二、平成十九年度人権教育調査研究事業報告の配布と来年度の協力依頼について
- 三、平成十九年度事業のお礼
- 四、災害初動体制について

犯罪をさせない！見逃さない街 地域で子どもを守ろう

町内会・自治会の役割

町内会・自治会の役割、機能はいろいろありますが、会員の安全・安心な環境づくりは特に重要です。

子供たちへの誘拐や、いたづら等悪質な事件を防ぐため、各地域が実施しているパトロールや学校のPTAが中心となって行っている防犯活動が犯罪防止に非常に役立っています。

一方、高齢者が受けやすい「振り込め詐欺」は、手口を次々と変えて、その被害は後を絶ちません。警察や防犯協会などと連携を密にして啓発活動を盛んにし、何とか被害をゼロにしたいものです。

また、地域によっては一人住まいの高齢者が増えていきます。独居高齢者が近所に気づかれずに亡くなるほど悲惨なことはありません。近所の声かけや町内会・自治会と民生委員・児童委員、ふれあい福祉委員などで定期的に訪問を実施して感謝されているとこ

ろもあります。

阪神大震災、新潟中越沖地震などで多くの尊い命が失われました。町内会・自治会の大きな機能の一つとして、「いざ」という時、近隣が結束して協力することが大切です。そのためには祭礼や盆踊り、どんど焼き、レクリエーション活動や多くの行事を通して近隣とのコミュニケーションを図ることが肝要です。

今は何時、何が起きるかわからない時代、情報の共有も必要です。最も重要なのは居住者の名簿作りです。個人情報保護が叫ばれている中、困難な面もありますが、高齢化時代に向けて急務だと考えます。

市長の所信表明にも防犯・防災や地域の課題解決のためには行政と共に地域力を高め、強化していくことの重要性が説かれていましたが、正に同感です。

地域の安全・安心は行政や他から与えられるものではなく、自分たちで備え守るものだと考えます。



(小倉自治会長 細川 隆)

住み心地良い自治会をめざして

大上自治会は、武蔵増戸駅西側に位置し、五日市線を挟んだ総数一五一世帯で構成されています。

平成一六年に自治会長を拝命し、悪戦苦闘しながら四年を経過して来ましたが、会報への執筆の命を受けた事を機に、自分にとって貴重な体験をご紹介し、皆様のご批判を戴きたいと思えます。

振り返れば、現役時代は徹

底した仕事人間で、自治会活動には稀に参加する程度でした。定年を機に地域への恩返しと考へ、思い切って自治会活動に飛び込んだ次第です。そして、第一に思い浮かんだ事は「災害発生時の対処法は？」と言うことでした。

先ず、目標を「会員の交流が盛んな自治会への前進！」と決め、諸行事活動の活性化構想をまとめ、予算を検討し資金対策が必要な事を知りました。タイミング良く、市の「資源集団回収事業」が本格的に運用されることを知り四月から即時スタート。更に「簡保払込団体設立」の提案を受け約一年がかりで設立を終え資金対策の目処を付けることができました。

一方、諸活動の活性化に関しては「広報誌」、「月例資源回収」、「安全安心パトロール」、「作品展」などを開始、継続する事により会員交流の場が増え、従来からの活動参加者に加えて新しい顔ぶれが増加するなどの変化が見られ、各種募金集金の応募率も著しく

向上するなど、予想を超える成果が得られました。

最終目標とした「防災体制作り」も昨春「自主防災組織体制」をまとめ、秋には防災避難訓練を実施する等、一定の前進を図るができました。振り返ると、万事性急な進め方であった事が反省されます。スピード重視を行動指針とした結果としてお許し戴きたいと思えます。何れも途半ば、今後とも住み心地良い自治会作りを目指して活動参加して行く所存です。

(大上自治会長 飯野貞夫)

